

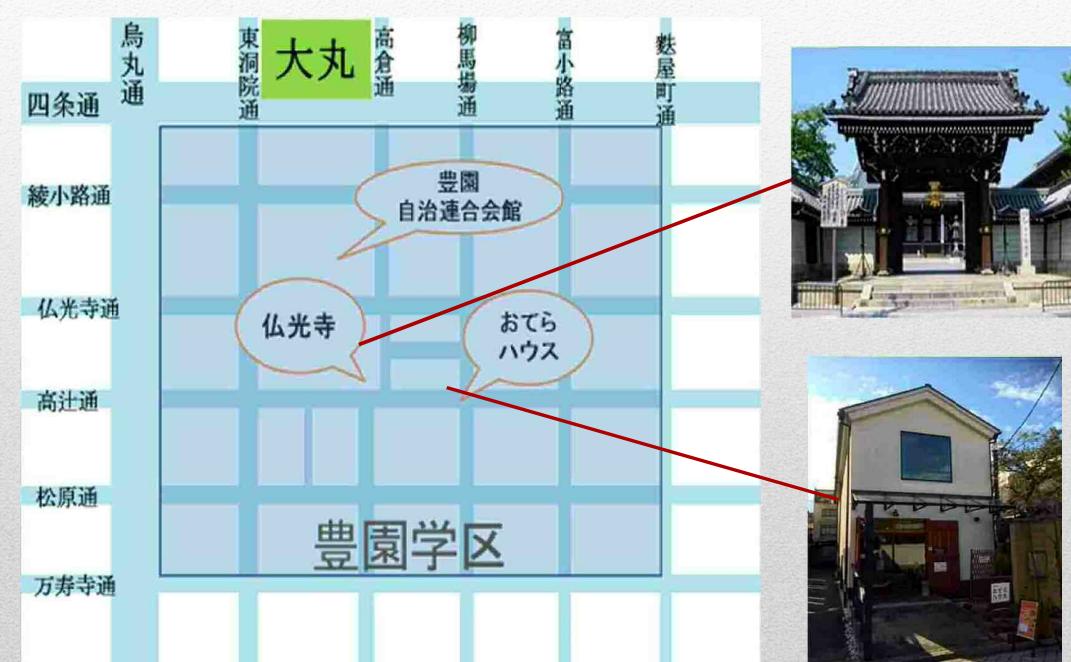
人をつなげる 豊園縁側プロジェクト

発表者 佐野凱紀
杉本昌之
中村珠巳
中平日奈子
水上智貴

人をつなげる豊園縁側プロジェクト実行委員会

豊園学区とは

人口：2686人 世帯：1770世帯





地域の課題

①高齢者の孤立化

②世代間交流が希薄

③地域イベントの参加者、
担い手の固定化

目的

地域参加のきっかけ作り: ①聞き取り調査



地域参加、世代間交流: ②下京区フォトギャラリー



新しい地域への参加者: ③ワークショップ



魅力の発信、活動記録: ④冊子作成

豊園自治連合会

役割 会場提供、広報

・豊園福祉協議会

役割 地域住民への情報提供
聞き取り調査の協力

学生

役割 企画、運営

・下京少年補導委員会豊園支部

役割 子供への参加の呼びかけ

etc...

下京区社会福祉協議会

役割 下京区フォトギャラリー
の助言、広報

・聞き取り調査

・下京区フォトギャラリー

・冊子作成

・ワークショップ

龍谷エクステンションセンター

役割 学生と市の仲介役

①聞き取り調査

○対象

伝統職人、寺社仏閣について独自に研究している方など約20人



○内容

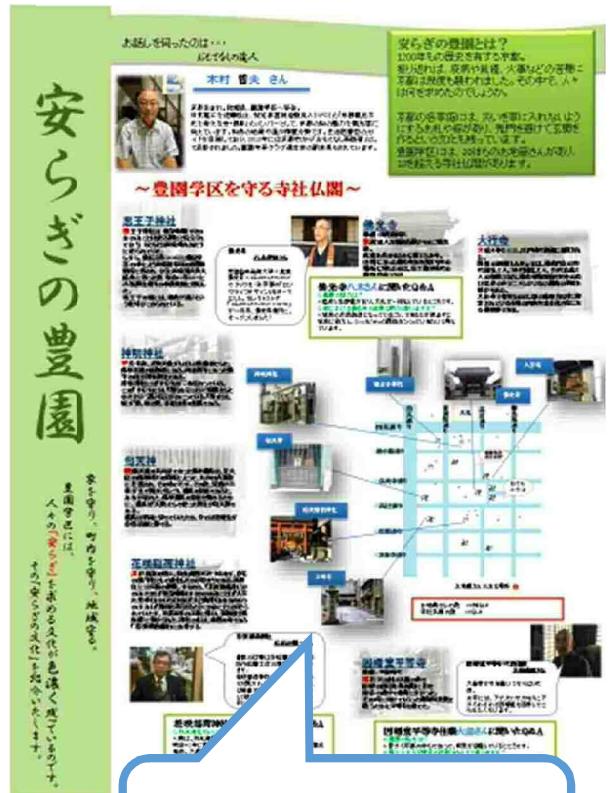
豊園学区の魅力

○発信方法

下京区フォトギャラリーでパネル展示



実際にフォトギャラリーに
来て下さいました。



フォトギャラリーで展示した
パネル

②下京区フォトギャラリー

○日時

2015年12月6日、7日

○参加者

約100人

○目的

- ・地域の魅力の発信と再認識
- ・参加者の増加と、つながり

○内容

今昔比較コーナー

聞き取り調査のパネル展示

一般公募写真展示 他

○会場

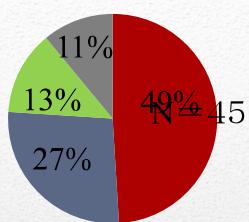
豊園自治連合会館、おてらハウス



当日の写真展の様子



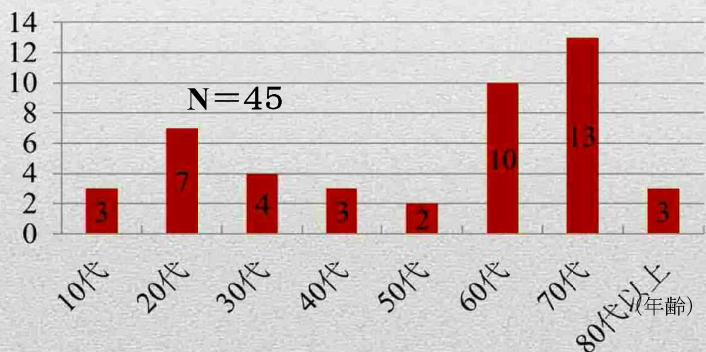
あなたのお住まいを教えてください



- 豊園学区
- 京都市内（下京区以外）
- 下京区（豊園学区以外）
- その他

(人)

参加者の年齢



来場者の約半分が
豊園学区の方で高
齢者が多い。写真展
をまたやってほしいと
いう意見多数

③ワークショップ

○日時

2015年1月17日

○会場

豊園自治連合会館

○参加者

地域住民:13人

学生:13人

○内容

『豊園学区の魅力と理想像を考えよう！』

『新しい地域イベントを考えよう！』



当日のワークショップの様子



豊園学区の魅力と理想像

魅力

- ・伝統職人が多い
- ・住みやすい
- ・京都らしい街並み
- ・人が温かい

etc…

理想像

- ・若者・マンション住民との交流
- ・気軽に立ち寄れる地域
- ・イベント参加者の増加
- ・行事の多様化

etc…

新しい地域イベントを考えよう！

手作り市～見て来て楽しもう～

対象：親子、マンション住民

場所：仏光寺

内容：手作り品をフリーマーケット形式で販売
伝統職人の物作り教室 他

企画・運営：連合会、学生、他

他にも コンビニでの朝市、祭り(盆踊りなど)、
豊園の歴史紙芝居などが出していました。

④冊子作成

○対象

地域住民

○発行部数

1500部

○配布方法

ポスティング、カフェに配架

○内容

豊園学区のイベント、活動記録

○目的

伝統文化や地域の魅力発信

次の世代への継承

私の、
好きな場所。

本プロジェクトは、京都市の平成26年度大学地域連携創造・支援事業(学生ちからボランティア)として認定されました。

ほうえん

龍谷大学経済学部 人をつなげる豊園隣側プロジェクト



伝統文化財を継承する刷毛

打刷毛（うしばけ）とは？

国宝や重要文化財の修理に使われます。表具の修理は本紙間に和紙で裏打ちするのですが、裏打ちする紙は糊で張り合はせることもに上から打刷毛でトントントントンと丁寧に叩き続けます。本紙と裏打ち紙の繊維が絡み合い、やがて一枚の紙となつて強度が増します。打刷毛は伝統文化財を残すためにもなくてはならないものです。国宝・重要文化財の修復に国内だけではなく、世界でも使用され、高評価をいただいています。

京都の歴史や伝統産業を絶やすないようにしてほしいです。私も大切にしていきたいと思っています。最近気になつているのは京町家。ちょっと広い空家があるが、マンションが建つてしまつ。小さいとガレージになつてしまつ。そんなまちなみは京都のイメージに合いません。観光客も何のために京都に来にのつかからないと思います。お寺があり、町家があり、文化財もあり、お寺を修復するような技術もある。それこそが京都です。そういったものが残つてほしいと祈っています。

藤井さんの一言

17

プロフィール

藤井源一郎 (ふじいげんいちろう)
昭和26年 11月9日生まれ 63歳

源一郎さんが本格的に打刷毛（うしばけ）を作り始めたのは20年ほど前。源一郎さんの父である4代目藤井源次郎さんは国選定保存技術保持者として認定されています。現在は父の後を継いでお店を経営しています。

藤井源一郎

活動のポイント

①緊密なコミュニケーション

②出会いの場

③地域からの協力的な支援

第1回 きょうと地域力アップ貢献事業者等 表彰式



成果と評価

成果

- ・自治会と絆が深まることにより地域での活動が柔軟に行え、繋がりの輪が拡大
- ・魅力の発掘・発信・共有による、住民の誇りや帰属意識の向上
- ・可能性の発見

課題に対する評価

- ・高齢者の引きこもり
協力を得にくかった。
- ・世代間交流
学生と地域の方との交流は深まったが、マンション住民や若者を巻き込めなかつた。
- ・参加者、担い手の固定化
参加者は改善傾向。

展望

対応策

身边に触れ合えるイベントの考案
⇒若い世代の参加者の増加



世代間交流
担い手の発掘

新しい地域イベント案

- ・手作り市
- ・コンビニでの朝市
- ・祭り(盆踊りなど)
- ・紙芝居

私たちの学び

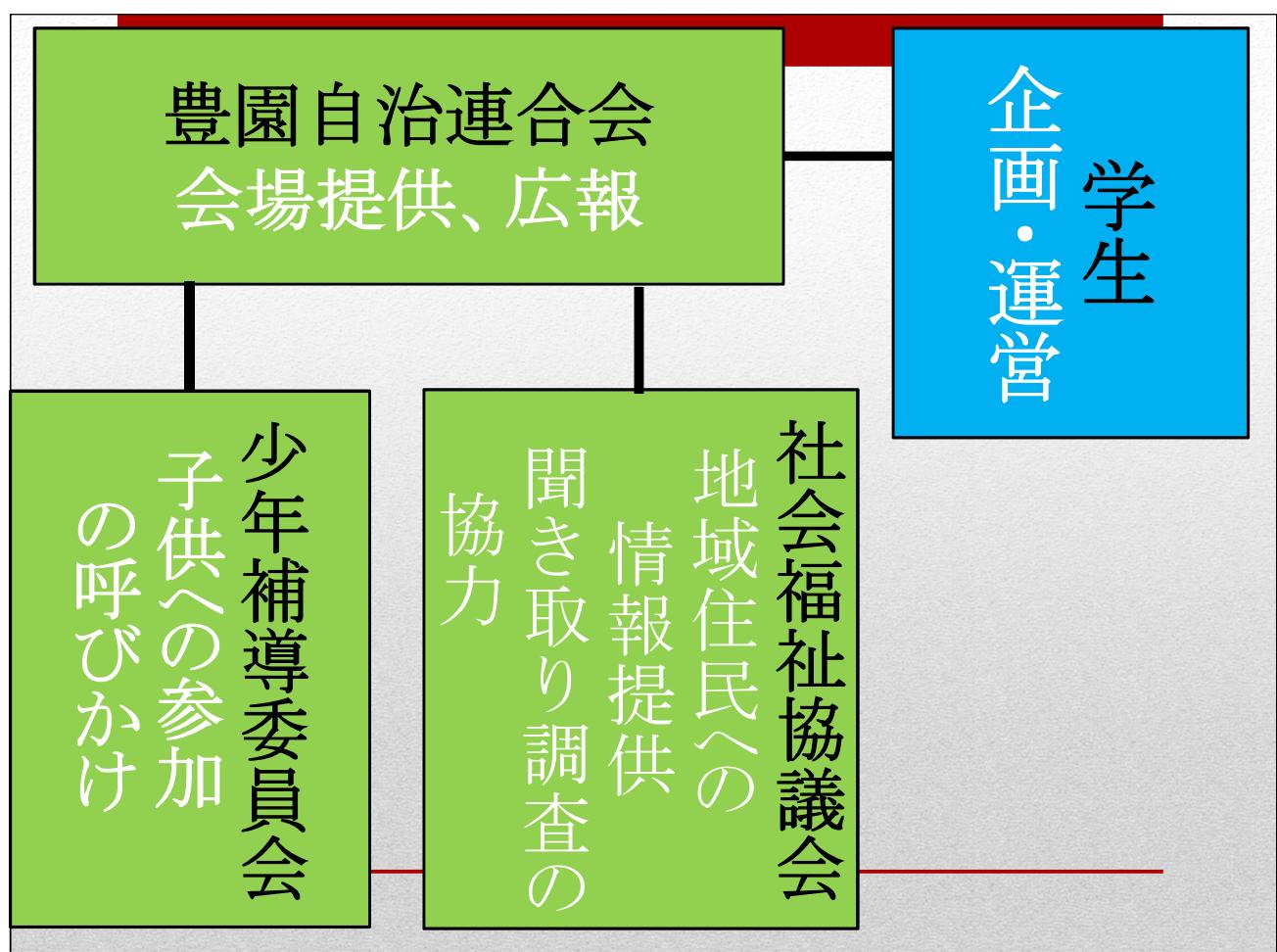
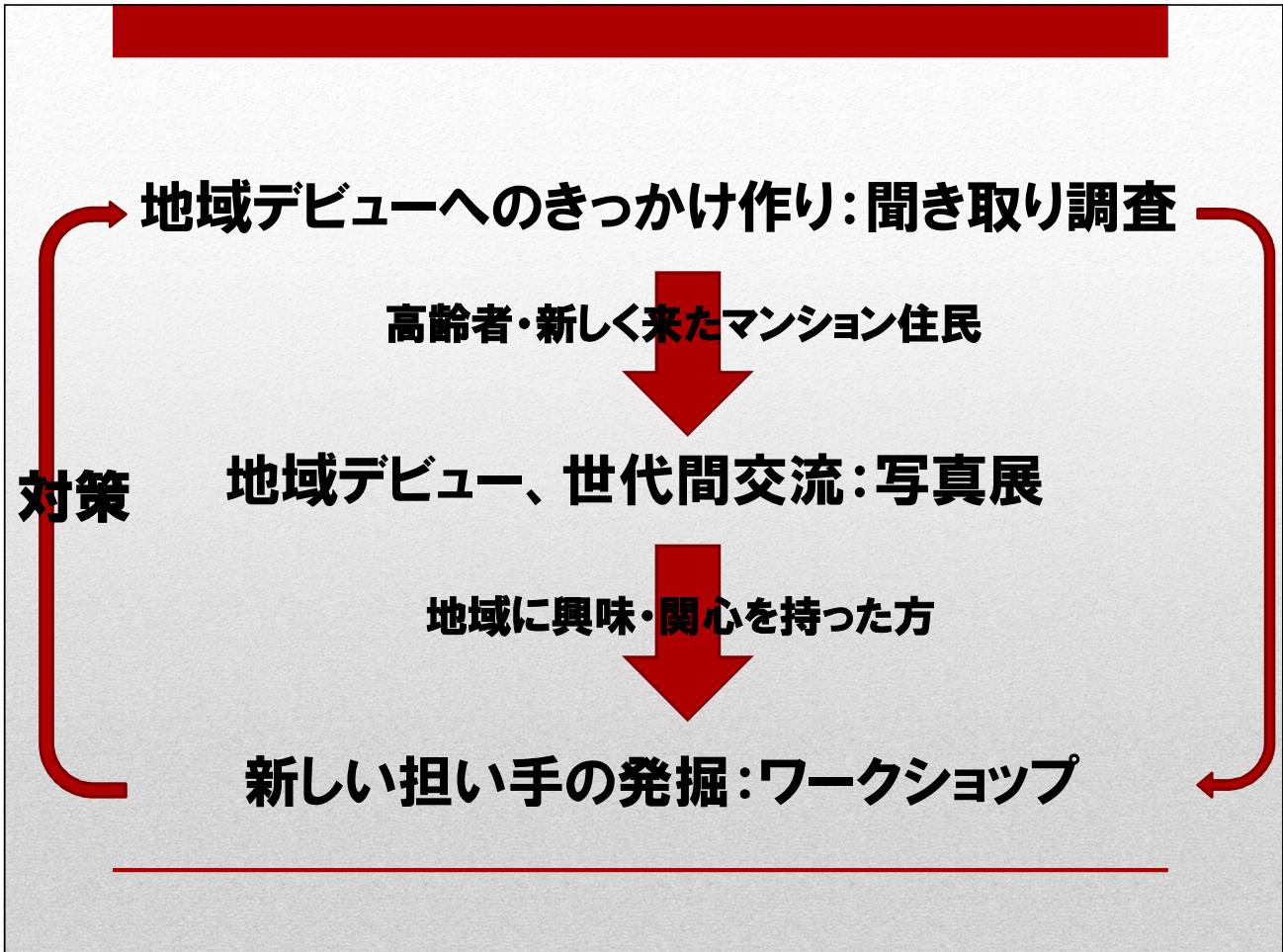
相手が何をしたいかを汲みとり客観視

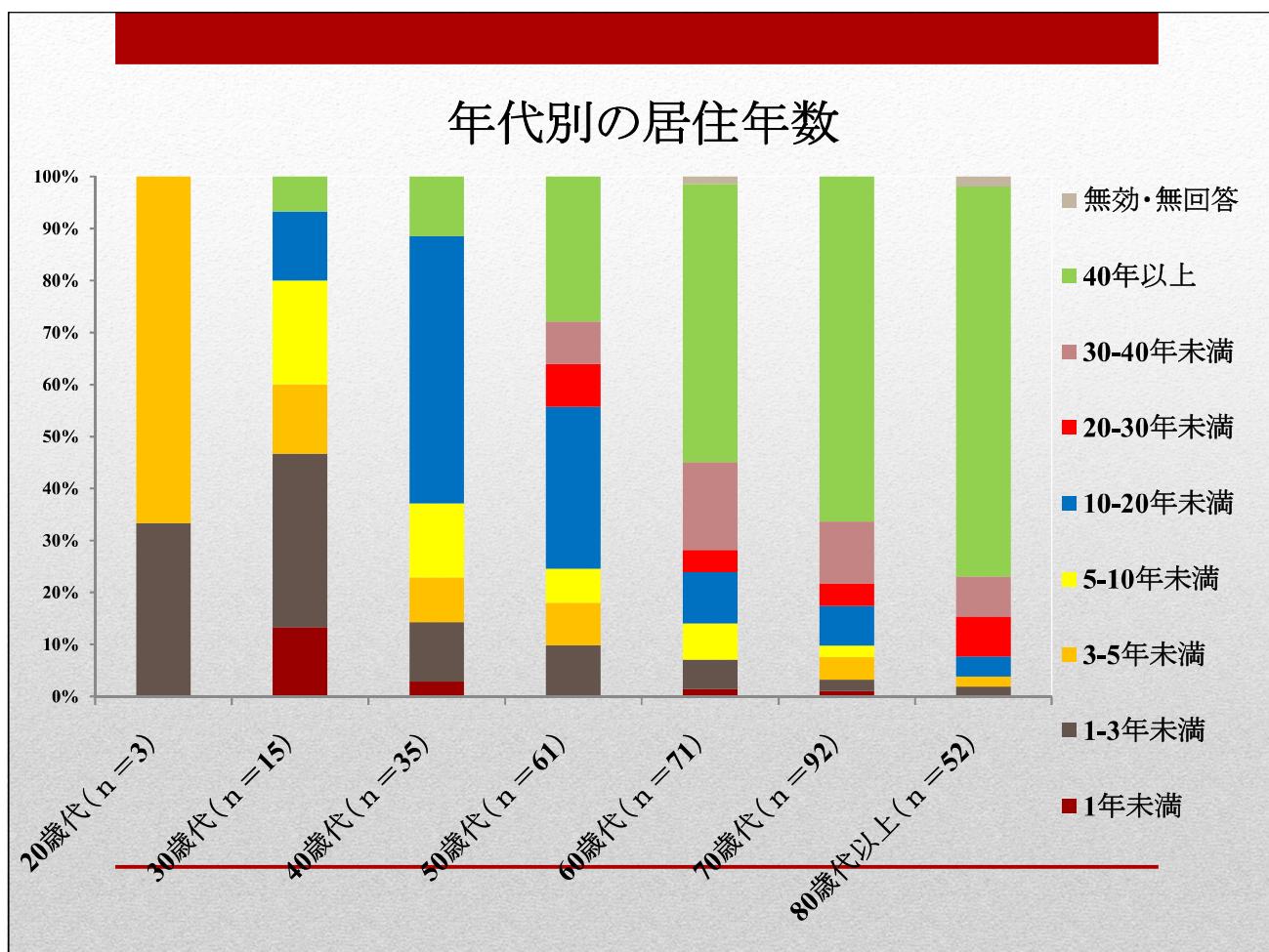
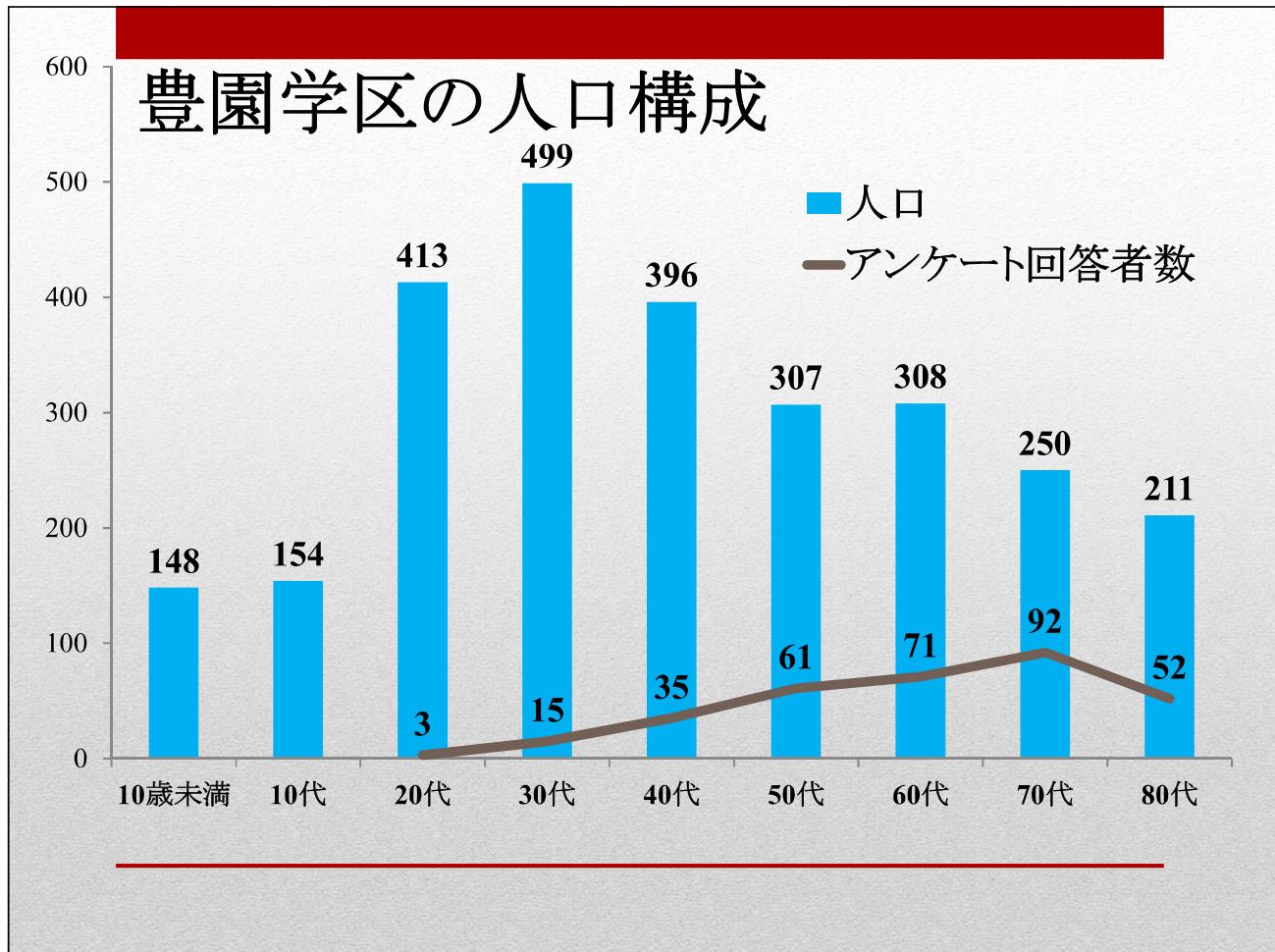
結果を出すことの重要性

周りに支えられていることへの感謝

信頼関係の構築

失敗を恐れずに挑戦





今までの活動



桜まつり

子ども祭り



なぜ豊園学区なのか？

2011年10月
京都下京区を拠点に“まちの縁側”を研究。



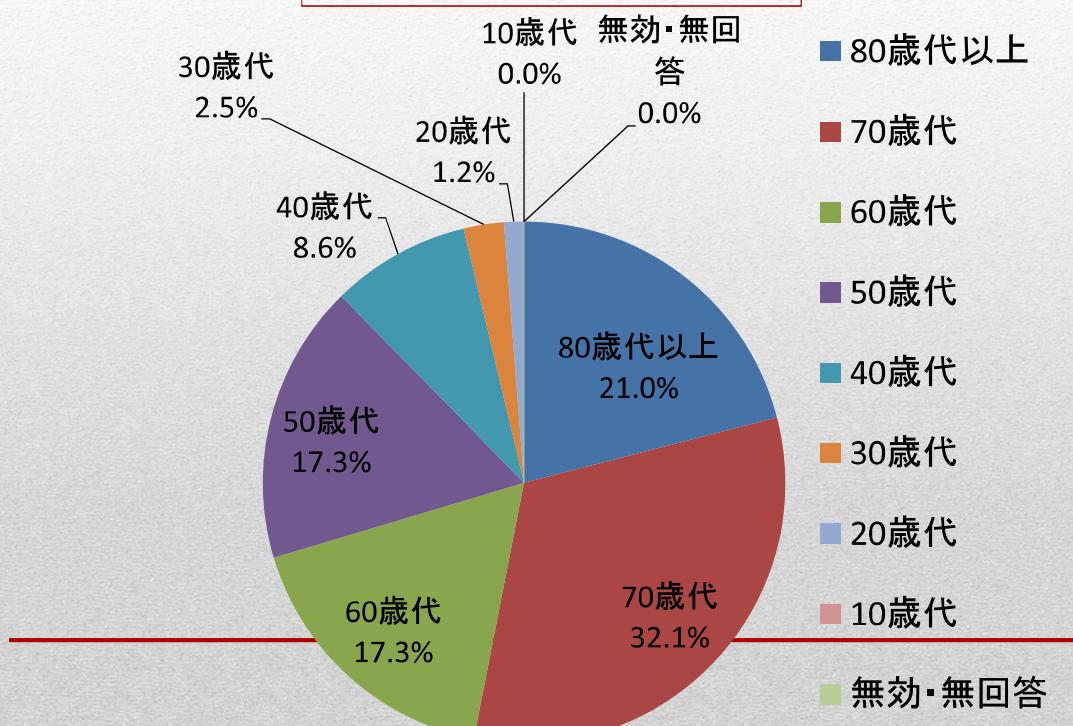
2013年10月
豊園学区にお住まいの方を対象にアンケート調査を実施。



今年度
アンケート調査をもとに、このプロジェクトを考案。

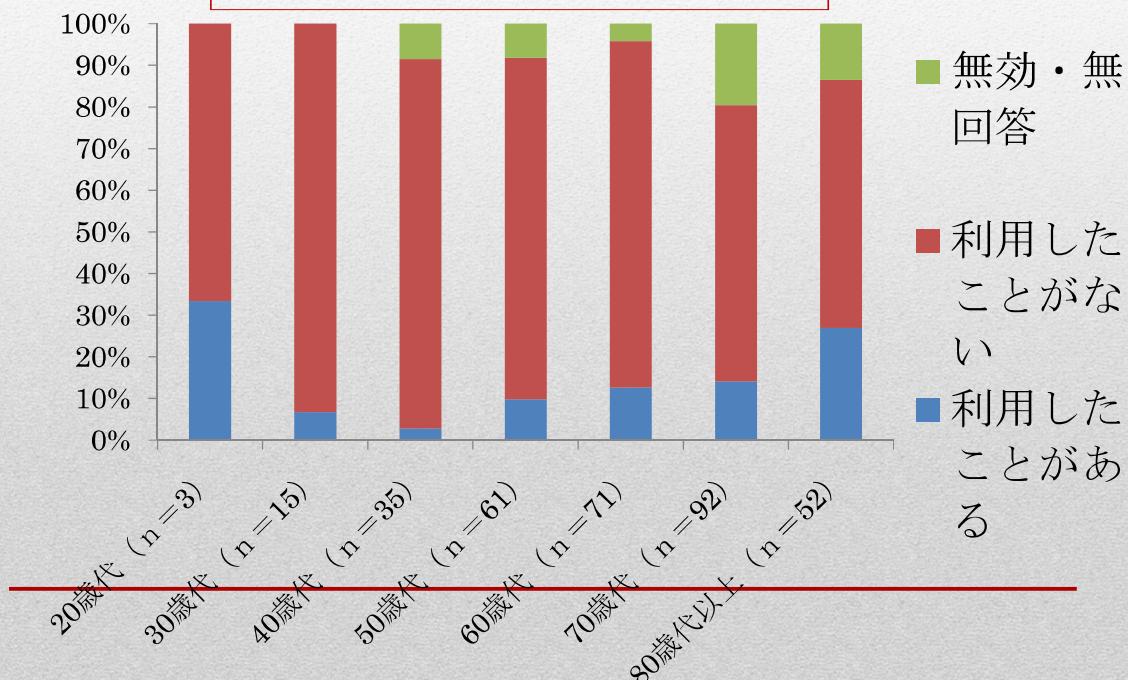
①単身世帯の高年齢化

单身世帯の年齢

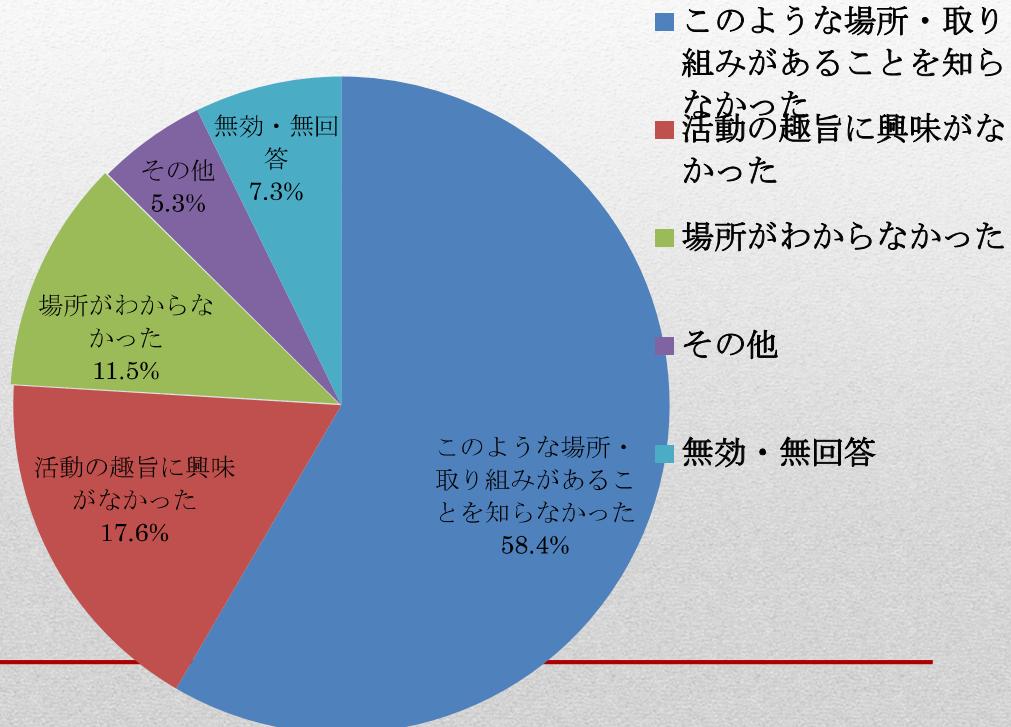


②世代間交流の軽薄さ

年代別の地域住民が
ふれあえる場所の利用実績



利用したことがない理由



③地域イベントの参加者、担い手が固定化している

高齢者



子供連れの親子